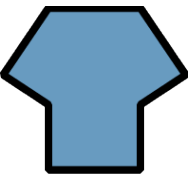


逃げ足 (第1話)

「逃げ足の速い人、遅い人」について、
インターネットで調べようとすると、「**何に見えますか？**」の設
問で、次の四択から直感でひとつ選ぶサイトに出くわす。(TR
ILニュース編集部／公認心理師コメントより引用)



- ① Tシャツ・・・やや逃げ足の速い人
- ② ネジ・・・逃げ足の速い人
- ③ 頭蓋骨・・・やや逃げ足の遅い人
- ④ 垂れ耳の犬・・・逃げ足の遅い人

それぞれの性格判断が以下のように示されている(概略)

- ① まずいと気付くのは早い(観察力は優れている)が、行動がのんびりのタイプ。
- ② 異変に気付くのが誰よりも早く(勘が鋭い)、フライング気味に飛び出すタイプ。
- ③ 異変にはそれなりに早く気付いても、あれこれ考えて行動が遅れる(思慮深く裏の裏まで考えてしまう)タイプ。
- ④ あまり周りのことを気にしない性格で、したがって気付くのも遅く、行動ものんびりしているタイプ。

若い頃の僕は、①と②の範囲に入っていたと思う。

それを証明するように、振り返ると、僕には、いささか自慢したくなるキャリアがあった。いや、言い換えれば、若気の至りといったところか。

小田高のプラスバンド入部、即辞退の素早さ

威張れることでないが、入部を決めて、入った部室の中で威張っている先輩を見た途端、その雰囲気は幻滅してしまった。早過ぎたかも知れないが、きっぱりと辞退した。所詮中学時代にうまく無かったクラリネットの演奏センスにこだわる気持ちもなかったもので、後悔はさらさら無かった。

なぜか、次の案を初めから用意していたごとく、電光石火で「地質部」を勝手に立ち上げた。

六〇年安保闘争の国会南通用門から、

ひたすら逃げて逃げまくった

同級生の誘いで、何度か全学連の共闘デモに参加した。

忘れもしない大学二年の六月十五日、国会議事堂南通用門のデモでは、何歩か前のスクラムを組んでいた東大生の一角が崩れて、後に知ることとなった樺美智子さんの死が発生していた。

総崩れとなったデモ隊の中、放水に追われながら、それこそ脱兎のごとく逃げに逃げ、山手線の線路内を突っ切ったことも。

次の日、逃げ遅れて留置場に泊まった学連委員の同級生に差し入れをすることとなった。今や長い付き合いの盟友である。

大学時代のアルバイト、ある客のひとことで

巣鴨のキャバレーで舞台美術担当のアルバイトをしていた時のこと、ある客からのひとことできっと辞めた。

その日、急遽ボーイ（ウェーター）のヘルプを頼まれた僕は、親指・人差し指・小指の三本で支えたトレイにビールを載せて意気揚々と、オーダーをいただいたお客様の前に立った。

何故か僕が学生であることを知った、その客がひとこと、「学生が何でこんなことをやってる？」

バックに戻った僕は、その客がどこかの大学教授であることを知って「あんただだって、どこに来ている？」憤懣を抱えて即、僕を気に入ってくれていた大学出の支配人に辞める旨申し出、強く慰留されたが、翌日から二度と戻ることはなかった。

潔さを示したような格好だが、ただ短気にはやっただけの、何の信念も無かった反省を後日思ったものだ。

浅草の脱出劇で生まれた新しい世界

学生時代、友人と二人して、浅草雷門近くの地下バーで一杯飲った後のことだった。

地下街の階段を上がったところで、いきなりチンピラにぐるっと取り囲まれそうになった。

そこは、相手が体勢を整える前の虚を突く様に、二人とも一目散で逃げおおせたが、何が原因であったのか解からず仕舞い。

ただ、この一件がきっかけで、自分の人生に楽しい仕事や趣味に繋がる世界が加わった。

相棒は、社会人で映画製作・配給の大手会社のカメラマン、下宿が一緒で、浅草の一件以来急速に接近して、

ある日、僕が授業の合間にSketch・Wanderと称して、スケッチブックを小脇にあちこちさまよいながら描きためた絵と文を二人して眺めながら、記録映画でも創らないか？という話になった。脚本は僕で、映像は彼。

テーマは、江戸期に重税で苦しむ庶民の窮状を幕府に訴えて死刑となった「佐倉宗吾」。義憤を感じてやろうとなった。

二人の都合で頓挫してしまったが、映画に限らず、新たな「面白くて深い」表現の世界を彷徨う遊びのはじまりであった。

今、この歳で再び挑戦しようとしているが、うまくゆかない。